

いかに『探究』において「日常性」は主体の問題となるのか

槇野 沙央理

後期ウィトゲンシュタイン哲学の代表作『哲学探究』（以下『探究』と呼ぶ）において考えられる「日常性」とは、どのように語られるべきだろうか。A. バズ（2012）のように、もっぱら「日常言語」を考えることで『探究』について考察したことにするなら、「日常性」とは「日常言語」に限定されることになる。しかし、S. カヴェル（1995）のように、『探究』を、個人がいかに規範を受け入れながら言葉を取り扱う主体となるかを告白するためのテキストとして扱うなら、「日常性」は、出自や来歴を語ることを通じて到達される地点となるだろう。

本発表では、『探究』における「日常性」を、他者とのやりとりにおいて承認される公共的な言語使用に限らず、公共的な言語使用を被る個々の主体性を明らかにすることのできる言葉として扱いたい。カヴェルのウィトゲンシュタイン論を参照し、『探究』を中心とした後期ウィトゲンシュタインのテキストが、読み手に、自身の不完全な総体（確立された場合の自己）を自身で補う営みを促すことを示したい。

現時点の見通しでは、以下のように考察を進めていく。『探究』は、私たちが何か深淵なことを語ろうとするとき、それまで築き上げてきた「日常言語」との信頼関係を反故にする危険が生じることを示唆する。「哲学者たちが言葉—「知識」、「存在」、「対象」、「自己」、「命題」、「名」といった—を用いて事物の本質を捉えようとする場合はいつも、「この言葉はその生まれ故郷の言語において現実にそのように使われることがあるのか？」と自問しなければならない。[…] 我々は言葉をその形而上学的使用から、日常的使用へと今一度連れ戻すのだ。」（PU 116）私たちは、これらの言葉から「馴染みの感じ」（PU 596）を取り去り、孤立させ、個々の言葉がそれ自体の力で（単体で）何か特別なことを意味するのだと期待する。

『探究』において私たち読み手は、言葉におく信頼を一度手放し、言葉に認めていた安定的な信頼関係を見失う。『探究』のこうしたドラマティックな場面に意識的となることが、読み手として『探究』がもたらす体験を十全に享受するために重要と考えたのは、カヴェルである。カヴェルは、ウィトゲンシュタインのテキストにおいて、「自己知の喪失[a loss of self-knowledge]、いわば、途方に暮れているという問題におのずと引きつけられる」（Cavell 1989 p. 36）という。

カヴェルの言葉を引き継いで述べるならば、『探究』が与える「喪失」の場面は、私たちにとって、これまで選択の余地なく受け入れてきた言葉との関係を、はじめて自発的に取り結んでいく契機となる。『探究』は、あまりにも単純化された言語像（例えば「ア

ウグステイヌスの像」(Ohtani 2016)) を読み手に与える。プリミティブな言語像を被った私たちは、言葉に対して抱いてきた熟知の感じを一度、中断せざるを得ない。これまで自然に形成してきた言葉との信頼関係に依存することなく、人工的・意識的に、あたかも虚構の生活を描写するかのよう、儀式的に、自分たちが言葉に要求したいことを確認していくことになる。

## 参考文献

- Baz, Avner (2012), *When words are called for: A defense of ordinary philosophy*, Harvard University Press. (飯野勝己訳『言葉が呼び求められるとき——日常言語哲学の復権』、勁草書房、2022年。)
- Cavell, Stanley (1989), “Declining decline”, *This new yet an approachable America: Lectures after Emerson after Wittgenstein*, The University of Chicago press. (齋藤直子訳「没落に抵抗すること：文化の哲学者としてのウイトゲンシュタイン」、『現代思想』、26巻1号、1998年、pp. 60-77。)
- . (1995), “Notes and Afterthoughts on the Opening of Wittgenstein’s Investigations”, *Philosophical Passages: Wittgenstein, Emerson, Austin, Derrida*, Cambridge, Mass.: Blackwell Publishers.
- Ohtani, Hiroshi (2016), “Wittgenstein on context and philosophical pictures”, *Synthese*, 193(6), pp. 1795–1816.
- Wittgenstein, Ludwig (2009), *Philosophical Investigations*, translated by G.E.M. Anscombe, P.M.S. Hacker and Joachim Schulte, Rev. 4th ed. by P.M.S. Hacker and Joachim Schulte, Wiley-Blackwell. (鬼界彰夫訳『哲学探究』、講談社、2020年。)